

令和6年度 熊本デザイン専門学校 学校関係者評価委員会 議事録

日時：令和6年5月23日(金) 11:00~12:00 (60分程度)

会場：熊本デザイン専門学校 501教室

出席者：15名

評価委員 (6名)

西山 喬 様	(総合企画株式会社 会長)
有田 満里子 様	(有限会社有田 代表取締役社長)
川口 滋 様	(くまもとデザイン協議会 会長)
島村 徹 様	(一般社団法人熊本県建築士事務所協会)
中山 洋子 様	(在校生保護者)
内村 友造 様	(卒業生・同窓会会長)

学校側出席者 (9名)

内藤 謙一	(校長)
徳村 尚晃	(事務局長)
千田 浩一	(教務部長、建築・インテリアデザイン科 主任)
児玉 守	(副教務部長 メディア映像デザイン科 主任)
松本 雪	(ファッションデザイン科 主任)
児玉 竜也	(グラフィックデザイン科 主任)
坪根 涼	(入試広報課)
藤本 翔太	(就職課)
平野 恵子	(書記)

議事：◇ 校長挨拶

開会にあたり校長より挨拶を行った。

◇ 評価委員並びに学校側出席者自己紹介

教務部長より、それぞれ出席者の紹介を行った。

◇ 学校概要説明

- ①各学科学生数構成
- ②学生募集の状況
- ③就職状況及び業界動向
- ④令和5年度 各学科産学連携の取り組み
- ⑤令和5年度活動、特徴的な取り組みについて
- ⑥2学期制へ変更に伴う年間ターム構成について

◇ 自己評価結果報告

千田教務部長より、自己評価について説明。

1. 教育理念・目標

1) 理念・目的・育成人材像

教育理念（建学の精神）・目的・目標・育成人材像が明文化されているか。
職業教育機関として専修学校教育に必要とされる考え方や指針、内容等が盛り込まれているか

2) 教育の特色

社会や関連業界のニーズを踏まえた将来構想を描いているか

2. 学校運営

1) 運営方針

運営方針は教育理念等に沿ったものになっているか

2) 事業計画

事業計画を作成し、執行しているか

3) 運営組織

運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか

4) 教職員の評価・育成

教員及び局員の能力評価・能力向上に向けた取り組みを行っているか

5) 人事・給与制度

人事・給与に関する制度を確立しているか

6) 情報システム

情報システム化等による業務の効率化が図られているか

3. 教育活動

1) 目標の設定

教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育課程を編成・実施しているか

2) 教育方法・評価等

各学科の教育目標、育成人材像に向けて、体系的なカリキュラム作成などの取組がなされているか

3) 成績評価・単位認定等

成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか

4) 資格・免許取得の指導体制

資格・免許取得のための指導体制があるか

5) キャリア教育

基礎的・凡庸的能力

①人間関係形成・社会形成能力、②自己理解・自己管理能力、③課題対応能力、

④キャリアプランニング能力を身に付けるための取り組みが実施されているか

4. 学修成果・教育成果

1) 学修成果

各学科の教育目標、育成人材像に向けてその達成への取り組みと評価がされているか

2) 就職率

就職率の向上が図られているか

3) 資格・免許の取得率

資格・免許取得率の向上が図られているか

4) 社会的評価

卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

5. 学生支援

1) 修学支援

学生に対する修学支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか

2) 就職等進路指導

就職・進学指導に関する支援体制は整備され、有効に機能しているか

3) 学生相談

学生相談に関する体制は整備されているか

4) 学生生活

学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。学生の健康を担う組織体制はあるか。生活環境支援体制を整備しているか

5) 中途退学への対応

退学率の低減が図られているか

6) 保証人（保護者）との連携

保証人との連携体制を構築しているか

7) 卒業生・社会人支援

卒業生の動向を把握しているか。社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか

6. 教育環境

1) 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

2) 学外実習、インターンシップ等

校外の実習、インターンシップ、海外研修等について、十分な教育体制を整備しているか

3) 防災・安全管理

防災・安全管理に関する体制を整備しているか。防災訓練等を実施しているか

7. 学生の受入れ募集

1) 学生募集活動

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っ

ているか。社会人入学生、留学生、障がい者等、多様な学生の受入れについて方針を明確にしているか。

2) 入学選考

入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか

3) 学納金

学納金は妥当なものとなっているか

8. 教育の内部質保証システム

1) 関係法令、設置基準等の遵守

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか

2) 個人情報保護

個人情報に関する規定を整備し、個人情報に対する対応を取っているか

3) 学校評価

自己評価、学校関係者評価の実施体制を整備しているか

4) 改革・改善

各学科の教育目標、育成人材像に向けて自己点検・評価活動の実施体制を確立して改革・改善のためのシステムが構築されているか

5) 教育情報の公開

教育活動に関する情報公開を積極的に行っているか

9. 財務

1) 財務基盤

学校の中長期的な財務基盤は安定しているといえるか

2) 予算・収支計画

予算及び収支計画は有効かつ妥当か。予算及び収支計画に基づき、適正に執行管理を行っているか

3) 監査

財務について会計監査が適正におこなわれているか

4) 財務情報の公開

私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか

委員の意見等

1. 教育理念,目標

- 学校の教育理念・育成人材像等について、関係者への周知は引き続き定期的に行ってもらいたい。
- 近年の社会情勢は激変下であり、専門学校として変化に機敏に通じていくように取り組んで欲しい。

<今後の改善、方針等>

教育理念、教育目的、教育人材像等については、学生便覧や HP、パンフレット等に掲載し内外に周知している。年度の節目の行事等、機会あるごとに職員や学生への再認識も意識して行っている。生成 AI の急速な進化による業界の動きを注視し、各学科の教育目標について、重点的に検証・検討を行いたい。併せて、教員が最新の情報を得られるよう、研修等も充実させていきたい。

2. 学校運営

- 情報システム化の取り組みはどのような状況にあるか。

<今後の改善、方針等>

学内業務の効率化を図ることを目的として、学内統合情報システムを導入した。令和 6 年度は移行期間として、現行システムとの並行運用となるが、将来的な効率化を図るための必要悪だと捉えている。年度中に各分掌において、出来る限りの効率化を図る手立てを策定し、新システムに反映させたい。

3. 教育活動

- 教育方法・評価法については、年 2 回の授業アンケートが主な評価手段であると思うが、異なる視点でより客観的な評価を行い、改善に繋げるように体制を整えてもらいたい。
- 新型コロナウイルスも 5 類感染症へと移行し、学校行事等の制約も緩和化されたと思う。学生が充実した学校生活を送れるよう取り計らってもらいたい。

<今後の改善、方針等>

令和 5 年度は、これ迄の 3 学期制から 2 学期制へ移行した年度であり、全ての学科・科目において、カリキュラム・シラバスの見直しや調整を行った。併せて、成績評価基準、進級・卒業基準についても内規等に至るまで見直し、よりの確な判定を行えるよう調整した。今後、しっかりと検証し、精度を上げていきたい。

4. 学修成果・教育成果

- 就職率、資格取得率向上に向けての支援体制は十分図られていると思うが、コンペを含めて実績を、もっと外部に向けて発信していくべきだと思う。

<今後の改善、方針等>

学修成果、就職、資格取得については、教務部・就職課・事務局が日常的に活発に情報共有し、協力し合って学生を支援する関係性ができている。就職指導においては、昨年度導入した就職支援システムが有効に稼働しており、学生の就職意識や就職課・教務部・学生間意思疎通の向上に役立っている。資格・検定については、関連団体・組織等と連携のうえ、学内で補講授業等を実施し、取得率向上を図っている。

5. 学生支援

- 各分掌間との連携を図り、安定した学生生活を送ることができるようお願いしたい。
- 保証人（保護者）との連携体制は構築されていると思うが、新システムを有効に運用して、一層の強化を取り図らってもらいたい。

<今後の改善、方針等>

学生への支援は主に担任が窓口となり対応している。内容により就職課や事務局、専門カウンセラーに引き継ぐ体制をとっている。保証人（保護者）との連携は、1年次の前期に行う保護者会をはじめ、SNS等により必要に応じてすぐに報告・連絡・相談を行える状態となっている。新システム導入において、分掌間の情報共有を促進し、一層の連携強化を図りたい。

6. 教育環境

- 学内の施設・設備においては、引き続き教育体制の整備に努めてもらいたい。
- 学生が閲覧できる参考図書は、定期的に整理する等の管理体制が取られているか。

<今後の改善、方針等>

熊本地震以降、年度ごとに教育環境整備を図っており、教室、実習教材などについては、一定の目標を達成できたと思われる。また、コンピューター利用率の高い学科については、自宅学習が可能となるよう貸与制を導入した。施設規模の問題もあり、専用室としての図書館の設置は厳しいが、各学科において参考図書や関連図書を集積管理し、学生の利用に応じている。

7. 学生の受入れ募集

- 学生募集に関して、広報課と教務部が連携して必要情報を提供されていると思う。
- 入学予定者に対しての情報発信や入学前教育を行う等、専門学校で学ぶことに対する基礎固めも必要なのではないか。

<今後の改善、方針等>

学生募集のメインツールにあたるパンフレット・募集要項を通じて、入学に必要なスキル、資格等の情報を提供している。重ねて、学校説明会等で丁寧な説明を行っている。授業詳細等に関わる内容については、広報課より教務部等に問い合わせが行われ、正確な情報を提供するように心掛けている。また、今年度からオンデマンド学習教材である「Udemy business」を全学生対象に導入し、入学前教育として30時間程度の履修を促した。

8. 教育の内部質保証システム

- 個人情報保護を含めた内部システム管理について、新システムでの管理体制を明確化し、管理運営にあたってもらいたい。

<今後の改善、方針等>

令和6年度より情報管理システムを導入し、一元管理を行うとともに、管理体制を階層化して責任の所在を明確にし、管理の徹底を図っていきたい。また、頻雑な管理運営を整理し、改善に向けたプロセスの明確化と透明化を図ることが重要だと考えている。

9. 財務

- 安定した教育活動を遂行するために必要な財政的基盤はもとより、中長期的な計画は策定しているか。

<今後の改善、方針等>

ここ数年の入学者増により財政基盤が安定化してきて、施設設備投資や待遇改善も実施出来るようになった。また、昨今の生成AI等による就業環境の劇的変化に適応するため、職員のみならず学生も含めDX教育等の人的投資も始めることとした。中長期的な視野で学校の将来像を描く第一歩と考えている。今後は、より具体的な中長期の計画を策定し、財務基盤の安定に向けたエビデンスの信憑性を高めるよう注力したい。